

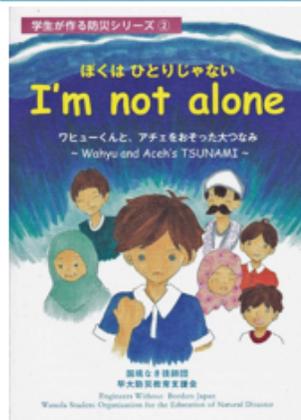
**防災絵本 NO.1 ; 「よしはおきらい物語」**

2011年、東日本大震災による津波被災地の岩手県大船渡市・吉浜／越喜来(おきらい)地区における津波から避難できたお話です。

①吉浜地区は明治時代の津波で壊滅した村は以後、海に近い低地に居住しないというルールを守ってきたおかげで、2011年の津波から災害を回避できました。

②越喜来小学校は海辺に近く、子どもたちは日頃地震が起きた時に津波が来ることを想定して山に逃げる訓練を実施してきました。おかげで3.11の大津波で100名近い子供たちは助かりました。; 避難訓練の大切さを学びます。

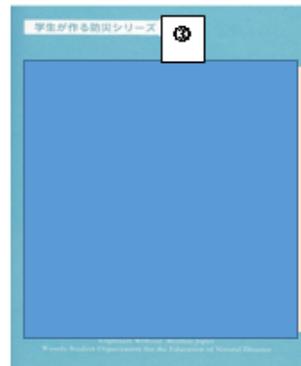
この絵本は英語翻訳も入れて世界の子どもに配ります。



**防災絵本 NO.2; 「ぼくはひとりじゃない、I am not alone」**

2004年、インドネシア・スマトラ沖でM9.1の地震があり津波がスマトラ島西部を襲いました。北部バンダ・アチェという町も津波で壊滅しましたが、当時11歳のワフュー君が家族を津波で失った悲劇を10年後、被災地訪問中のWASEND学生に話しました。日本の津波被災地だけでなく世界で起こった津波災害の恐ろしさを絵本にして世界の子どもたちへ伝える目的で編集しました。

世界の子どもたちに伝えるために英語訳が入っています。

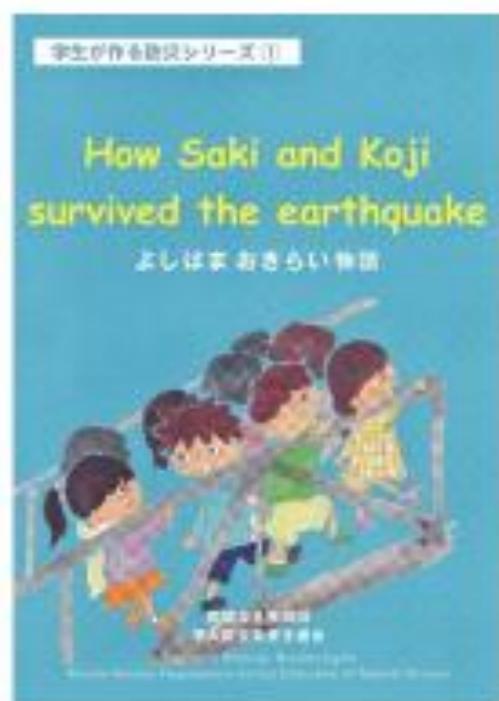


## 絵本制作プロジェクト

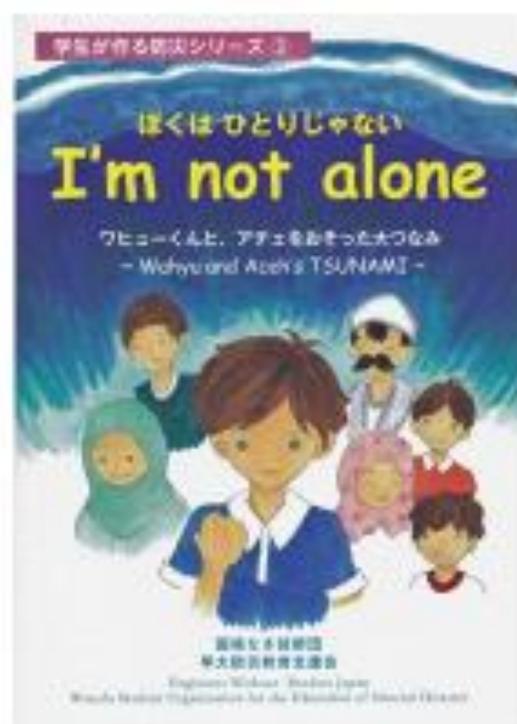
防災絵本は「国境なき技師団」の活動にリンクして、災害被災地における実話をもとに絵本を作りました。技師団と学生は、被災地の現調査、取材を行い、学生たちは子ども向けのストーリーを描き絵本を作成しました。技師団は印刷、発行、寄贈、販売を担当、学生は国内・海外の小学校訪問の際、教材として配布しています。

第1刊は、避難訓練の大切さを教えます。

### 第1刊 よしはまおきらい物語



### 第2刊 ぼくはひとりじゃない



第2刊は、自然災害の恐ろしさを教えます。

# 絵本第1刊

「よしはまおきらい物語」

津波被災地を調べて絵本を作りました。



学生が作る防災シリーズ①

How Saki and Koji survived the earthquake

# よしはま おきらい 物語



国境なき技師団  
早大防災教育支援会

Engineers Without Borders Japan  
Waseda Student Organization for the Education of Natural Disaster

おばあちゃんは <sup>よしはま</sup>吉浜をおそった  
大きな津波<sup>つなみ</sup>のことを話してくれました。

「昔はなあ <sup>よしはま</sup>吉浜も 海の近くに家を建てていたんじゃよ」

Then, she told Saki about the huge tsunami  
that had hit Yoshihama.

"A long time ago, there were houses near the ocean, too."



「でもなあ ばあちゃんが生まれる前にな  
それはそれは 大きな津波<sup>つなみ</sup>が 町をおそったんじゃ。  
とてもたくさんの人と家が 流されてしまったんじゃよ」

But, before I was born, a very huge tsunami  
Many people and houses were washed away."



吉浜(よしはま)の集落は海に近い土地でした。(写真右下)  
明治時代の大津波で集落は壊滅し山地の高台(写真左の高台)に移住した歴史があります。











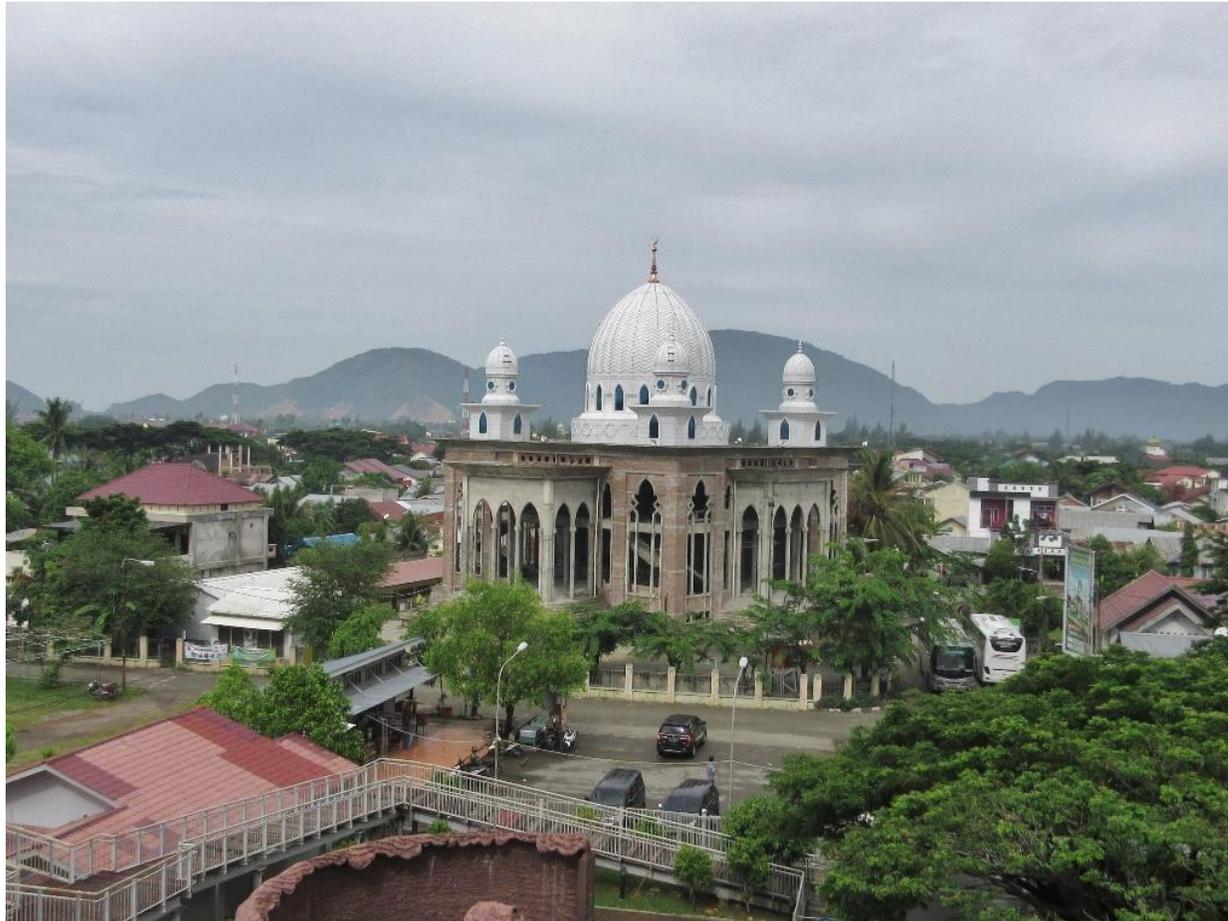
越喜来小学校の校長先生から津波避難当時の様子を説明いただきました。

技師団:2名  
WASEND:6名

児童100名は、日頃の訓練に従って「地震がきたら山に向かって避難する」という教えによって、写真のような山道を歩き避難しました。  
津波襲来を山から見下ろし、どこまで上がってくるのか不安だったそうです。



# 絵本第2刊 「ぼくはひとりじゃない」 取材地 インドネシア・バンダアチェ市



第2刊の防災絵本「ぼくはひとりじゃない」は、インドネシアの津波被災地 バンダアチェ市で被災した12歳の少年の悲劇を取材して絵本を作りました。

2004年に襲ったスマトラ島沖の大地震は、大きな津波によってインド洋周辺国にも及ぶ未曾有の被害をもたらしました。

スマトラ島西端にあるバンダアチェ市は、津波が都市部を襲い7万人を超える犠牲者が発生し、絵本の主人公ワフュー君は当時中学校に入り寄宿舎にいました。先生の指導で高台に避難しましたが、避難場所にて9日間、津波で壊滅した市街地を歩き回り、家族6人（両親と弟3名、妹1名）の安否を訪ねましたが、やっと叔父さんに遭遇し家族が6名犠牲になったと知らされました。

その間の様子を取材、実話を絵本にしました。

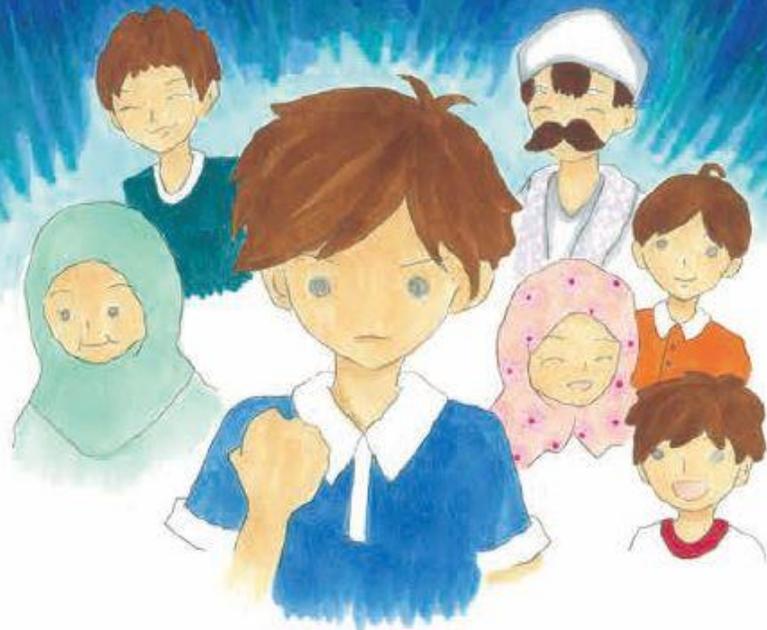
現地調査・取材；技師団 2名、  
WASEND 3名



学生が作る防災シリーズ②

# ぼくはひとりじゃない I'm not alone

ワヒュー君と、アチェをおそった大津波  
~ Wahyu and Aceh's TSUNAMI ~



国境なき技師団  
早大防災教育支援会

Engineers Without Borders Japan  
Waseda Student Organization for the Education of Natural Disaster

じしん  
地震がおきてから9日がたった。  
ひきこもり  
避難所をいくつもさがしたけど、  
かぞく  
家族には会えなかった。

「みんなどこに行っちゃったんだろう…」

I visited all the shelters I found. But  
couldn't see my family.  
"Where did they all go?"



きこえる  
響り道、うしろからこえをかけた。

「ワヒュー！」

「お父さん??」

I was heading back to my shelter,  
when someone called my name from behind.

"Wahyud"

"Dad?"

ワフュー君の実家は海に近く低地でした。大きな津波は一瞬にして家屋を破壊しました。その壊滅した思い出の家を訪ねました。



## 取材と調査





WAFYUさん と 家族(両親、弟2名、妹1名)

# バンダアチェ市



スマトラ島沖地震：  
2004. 12. 26、7時58分

津波襲来のバンダアチェの町





AFP/Getty



